とはない。その知見と経験を基礎としながら、さまざまな領域 文化人類学・民族学の考え方は、研究の世界だけにとどまるこ

聞き手

上橋 菜穂子

川村学園女子大学教授

性を提唱している。研究などのほかに、民族学に情報学や時空統合アーカイブスの重要む民族情報学や時空統合アーカイブスの重要な民族情報学を取り込みには、民族学に情報学を取り込みにより、これでは、日本のでは、

(本誌編集長)

東京都生まれ。文学博士。専攻は文化人類学、東京都生まれ。文学博士。専攻は文化人類学、原記編》〈王獣編》はNHK教育テレビでテく間蛇編〉〈王獣編》はNHK教育テレビでテく間蛇編〉〈王獣編》はNHK教育テレビでテレビアニメ化がなされている。

C国永智子

のジャンルにわかれるように感じるのですが。 -これまで発表された作品を分類するといくつか

する作家上橋菜穂子さんに聞く物語の世界

と奥行きを示す。文化人類学者であると同時に、国際的に活躍 で活躍する研究者の存在は、あらためてこの学問分野の広がり

「物語」を書いているだけなんです。 まったく考えていません。ただ、生まれてくる れることが多いのですが、 私の作品は、 ファンタジーや児童文学と表現さ 私自身は、ジャンルは

最初に何かインスピレーションみ

たいなものが、あるということでしょうか。

そうなるのかはわかりませんが、 そうですね。いきなり生まれるのです。どうして 『獣の奏者』も「守り人シリーズ」もそうです。 いきなりきます。

行っちゃいけないな、と感じるときがあったりし 物語を書き進めるうちに、あ、こういう方向に 頭のなかで枝道がいっぱい分かれていくので

> ラストにたどり着いているのです。 動いていくようになります。そして、 すが、その多くが消えていって、 ひとつの方向に 気がつくと、

を決めたり、 書き出しの段階で、登場人物のキャラクタ 名前をつけたりもされないのでしょ

登場人物の名前は、たいがい、

それに何かがくっついた時にいきなり、あぁ書け 編を観ていて、燃えるバスのなかから、エキスト るって思うのです。 です。しかし、それだけでは物語にならなくて、 小さな男の子を守って旅をするのだと思ったので ルサという女性の姿が浮かんできて、この人が、 くるシーンがありまして、それを見た瞬間に、 ラのおばさんが男の子の手を引いて慌てて降りて 中に生まれた瞬間に生まれてきます。例えば「守 人シリーズ」の場合は、 これが『精霊の守り人』の主人公バルサ誕生 レンタルビデオの予告

と思うようになりました。

でも、

一方で、

歴史がものすごく好きだったん

高校のころは漫画にはまって、漫画家になりたい

じられると恋は燃え上がるもので(笑)、中学か

嫌いで、漫画禁止令がでるほどでした。

でも、 漫画は大

ました。父は洋画家なもので、 物語をつくる人なので、

読者にも見えないと思うのです。 な感覚で書いています。風の音や声も自然と聞こ 自分が見ている世界を文章で写生しているよう 作家が見たり聞いたりしていないものは、

けは。 文化人類学を専門とされるようになったきっか 文化人類学との出会い

博士課程まで行こう、第一線で活躍する研究者た びたいとずっと思っていました。どうせ学ぶなら です。考古学か、世界史、日本史のいずれかを学

ちと同じくらいの知識をもった上で、

何か書きた

いと思ったのです。

話的世界』に出会ったんですよ。 を受けたんです。 大学のゼミで、 私は、ギリシア神話や北欧神話 山口昌男先生の『アフリカの神 そのとき、 衝撃

隣の朝鮮半島の王朝の王様の は知っていても、 のだろうと思ったんです。 なんと私の知識は偏っている の島々の歴史も私は知らない 名前は知らない。オセアニア の名前を知っているのに、 神話があることさえ意識して いなかった。遠いローマ皇帝 文化人類学は、その「偏っ アフリカに お

惹かれたのです。 せてくれた学問で、そこに心 た世界」の外へと目を向けさ

読めるようになるよりずっと前に、 になって祖母の話を聞きました。だから、

物語に慣れ親

文字が 夢中

しんでいたのです。

その後、作家という存在を知りましたが、漫画

座をしていましてね、たくさん昔話をしてくれま

した。まさに口頭伝承の宝庫だったのです。

生まれの、

武家の血筋の人で、

いつもきちんと正

明治の

もうひとつは、父方の祖母の影響でした。 と親がよく本読んでくれていたことがひとつと、 ていました。作家という言葉すら知らないほんと

物心ついた時には、物語を書く人になると思っ

そういう才能に、ご自分が気づかれたのはいつ

に小さな時から、

物語中毒のような状態だったの

あまり身体が強くなくて、

ごろですか。

語り部の誕生

最初はどのような調査・研

### 究をされたのですか。

興味をもつよ

維持される背景には、他にも大切な要素がいくつ **浄観がテーマで、青ヶ島と宮古島で調査をしまし** て考える議論が主流でしたが、実際にある習俗が リミナリティとの関わりなどで月経不浄観につい た。当時は、 もあるのではないかと考えていました。 卒論と修論は、 男女の社会・文化的な地位の問題や、 日本における産育習俗と月経不

家の中で暮らすと、どんなことが起きるのか、 あり方とは大きな差異があるような気がして、 二社会は、いわゆるアングロ・ケルト系の社会の ませんでした。文献を読んだ印象では、アボリジ ボリジニについて、文献でしか読んだことがあり うか、と御助言をいただきました。私は当時、 研究がご専門の青柳真智子先生から、オジィ・オ バァに可愛いがられてないで、 んなに違う文化背景をもつ人びとが、ひとつの国 そんななか、博士課程に進む時に、 もう少し大きなテーマにとりくんではど 言葉が通じないと オセアニア そ ア

ドに決めたのです。 の実態を知りたいと考えるように オ ーストラリアをフィ

採用されました。それがアボリジ ア州の小麦ベルトにある田舎町の くて、 ニ研究の第一歩でした。 ショナル・インターシップという 小学校のボランティア教員として のに応募したら、 アボリジニが暮らしてい 苦肉の策で、 ルドに入る方法がわからな 西オー インターナ

アボリジニと雰囲気がすごく違う 行ってみると文献で知っていた -ストラリ



3 月刊みんぱく 2009年7月号

域に入っています。て、一九九○年から現在まで、ほぼ毎年、同じ地同じところに半年、数カ月と入っていくようにし同じところに半年、数カ月と入っていくようにし最初は数カ月くらい滞在しました。その後も、

### 翻訳と文化差

#### しょうか。 ――研究と執筆を両立されるのは大変ではないで

もう、死にそうなほど大変です(笑)。今年は もう、死にそうなほど大変です(笑)。今年は いまNHK教育テレビで土曜の夕方六時二五分から放送されていて、その監修もやっていますし。 霊の守り人』がアニメになったり、新潮文庫に 霊の守り人』がアニメになったり、新潮文庫に なったりしてから、作家業の方が異常な忙しさに なってしまいました。「守り人シリーズ」は、ア

久保正敏編集長(左)と上橋菜穂子さん

れられるのは何故でしょう。

出版された翻訳の児童文学の出版された翻訳の児童文学の 最高賞ミルドレッド・L・バ 最高賞ミルドレッド・L・バ まって、この賞は、数十年の歴史 た。この賞は、数十年の歴史 た。この賞は、数十年の歴史 た。この賞は、数十年の歴史 た。この賞は、数十年の歴史 た。この賞は、数十年の歴史 た。この賞は、数十年の歴史 た。この賞は、数十年の歴史 がある賞なんですが、これま で、ほとんどフランスとかド イツの方がとられている賞な ので、受賞の知らせを聞いた ときは驚きました。イタリア ときは驚きました。イタリア ときは驚きました。イタリア ときは驚きました。イタリア ときは驚きました。イタリア ときは驚きました。イタリア ときは驚きました。イタリア ときは驚きました。イタリア ときは驚きました。イタリア ときは驚きました。

に近い骨格を持っている物語だからなのか、漢字さえ開いてしまえば、小学生から楽しんでいただけるようです。

ら出されている場合は、「大

ているということでしょうか。でくださっているので、これはまあ、うまくいっ気遣いはしています(笑)。大人の方々も楽しん子どもにはわからない表現をする、というような人の恋愛」を描く場合は、大人にはわかっても、

は、中高年男性からも、よくお便りを頂戴します。十~四十代の女性読者が多かったのですが、いまおばあさんまでいらっしゃいますし、もともと二読者層は、すごく多様で、小学生から八十代の

# 多様な世界を描きたい

る人間が交差する世界を描きたいのです。 私は、多様な文化が混在し、多様な立場で生き

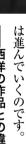
どの民族も国々も並列で存在しているんです。そ と考えてしまう。それに対し、 というレベルでものを考えなくてはいけない。他 様な立場の人びとが動きまわる事によって、 化してしまう越境者たちなんですね。こういう多 の国へ行って、様々なものを見るけれど、 う登場人物は為政者になる立場の少年だから、 会に根付いて生きる人びともいる。チャグムとい も根付くことが出来ない。それに対して、 流れ者ですからどこにでも行けるけれど、 例えば、『精霊の守り人』の主人公バルサは、 呪術師たちです。彼らは、この世さえも相対 バルサより、さらに枠にとらわれてないの では自分の国はどうしたらいいのだろう バルサにとっては、 常に心 村落社 どこに

英語版では翻訳者とカンヅメになって修正作業英語版では翻訳者とカンヅメになって修正作業いを発した」というようなところが英語ではうまいを発した」というようなところが英語ではうまく表現できないのです。そのほかにも、日本語は主語を書かなくても通じるけれど、英語では主語を書かなくても通じるけれど、英語では主語をきたんと決めなくてはならない。そうすると、をきちんと決めなくてはならない。そうすると、かり、正直、がかなり変わってしまうんですよね。翻訳っておもしろいなと思いました。しかし大変でした。神経を使う作業ですし、相当時間がかかりした。神経を使う作業ですし、相当時間がかかりした。神経を使う作業ですし、相当時間がかかりした。神経を使う作業ですし、相当時間がかかりした。では一次によりにないます。(笑)。

# ――上橋さんの作品が多くの子どもたちに受け入幅ひろい層へ向けての物語

生の時に、J・R・R・トールキンの『指輪物語』というか、私の思い込みからだったんです。中高最初に児童文学として作品を出したのは、なん

や、ローズマリー・サトクリフの 「ローマン・ブリテン」シリーズ などにゾッコンはまったんです。 サトクリフの歴史物語は、児童文 学として出版されましたが、実に 学をして出版されましたが、実に でした。例えば『ともしびをかか でした。例えば『ともしびをかか げて』は、ローマの属州支配が終 げて』は、ローマの属州支配が終 イギリスを描いているのですが、 ローマという「想定上の故郷の間で



# たりですか。 ――西洋の作品との違いはどのあ

と絶対悪の物語だとよく言われまファンタジーは、光と影、絶対善キリスト教が背景にある西洋の

例えば、アボリジニに対するテイク アウェイいく物語です。

例えば、アボリジニに対するテイク アウェイ例えば、アボリジニに対するテイク アウェイのです。でも、その「善意」が、別な面から見たのです。でも、その「善意」が、別な面から見たのです。でも、その「善意」が、別な面から見たのです。でも、その「善意」が、別な面から見たのです。私が書きたいのは、そわからないと思うのです。私が書きたいのは、そういう事なのです。

# 界にまでおよんでいるようですが、どうしてですか――物語が人間の世界で終始しないで異次元の世

『獣の奏者』 上橋菜穂子=作 浅野隆広=絵 講談社





です。
です。
されが児童文学なのだと思いこんだんちゃって、これが児童文学なのだと思いこんだんサトクリフの一連の物語に、私はすごく惹かれくるサクソンとの対立の中で葛藤していく。この引き裂かれる若きローマ兵が、どんどん流入して

きながら、 だったということなのです。 中では、異世界ファンタジーと分類されるもの として、物語を書いてきた。それが文学の分類の 森羅万象すべてが生々流転していく世界が心の中 なイメージが私の中にはあった。もっと言えば、 とがいて、その人びとがぶつかり合い、悩み、動 否応なく生きていかざるを得ない存在として人び その歴史の果てにある世界がまずあり、 味があったんです。滔々と流れつづける歴史と、 つねに「世界の中に在る」存在として感じられて とって「人」は個として存在しているというより にあったのです。そういうもの「全体」を描こう というイメージがありました。 恋など、 「人間」というより「人びとと世界」に興 巨大なタペストリーを織っていくよう 人間のどうしようもなさや、 「人間について」描くのが文学であ でも、 その中で

その上、サトクリフの作品が児童文学であるので、私が書いたものもそうなのだろう、まぁ絶対に純文学じゃないし、と思って児童文学の出版がに純文学じゃないし、と思って児童文学の出版ので、私が書いた物語は「児童文学であるの

ら歴史の中で生きていく、昔からある「語り物」のか、主人公たちが、さまざまな事に出会いなが使ったり、文を飾るのが好きではなかったからなないのですが、もともと必要以上に難しい言葉をまったく「子ども向け」に書いているつもりは

私は、「すべてが判明している」ものとして世界を書きたくないのです。人の知覚・理解には、界を書きたくないのです。人の知覚・理解には、ののでものを想像することのできる力につながると思うものを想像することのできる力につながると思

私が描く異界は死後の世界ではありません。死私が描く異界は死後の世界ではありますが、常にそこはされてしまいますが、異界ならば「わからない」まま在る。人びとは必死に、「そこ」について知ろうとしたり解釈したりしますが、常にそこはろ、様々な言説が飛び交う、そういう状況を書きる、様々な言説が飛び交う、そういう状況を書きたいのです。

日常生活が制限されてしまうから嫌だと思いなが 巫病と呼ばれるようなものにかかって苦しんで、 カカリヤ **怖を味わう側面もある。私が調査で出会ったカン** 切な財産になっています。 付き合いみたいものを、実際におばあちゃんたち もおられた。現実の中の、 ありがたかったです。異界と関わる人たちには、 じることが出来たということは、物語を書く上で、 に異界と関わる人たちが、どんな苦労をするか感 調査をしてきたお陰で、 顔を見ながら話を聞くことができたことが、 仕方なくカミサマを受け入れた、という方 癒されるという側面だけでなく、 や、ミコさんたちの中には、 あちら側とこちら側の 日常生活の中で、 苦痛や恐 いわゆる

## 世界を俯瞰したい

た、舟上生活者のイメージが浮かぶのですが。の海の漂泊民ともいわれるパジャウやサマといっ――作品を読んでいるとマレーシアやフィリピン

月刊みんぱく 2009年7月号 4

# である訳

るのです。 哀しみの多くが、 てしまうと、 るような物語の場合、都合が良すぎる魔法を描い たとえば、 理がないと思えてしまう魔法の描き方があります。 てきますが、 ヨーロッパのファンタジーによく「魔法」がで 物語の性質にもよりますが、私が書いてい 人が死からさえ蘇るのであれば、 大切なものを無にしてしまう気がす 私には、辻褄が合わないというか、 意味をなくしてしまうでしょ 世の

越境と

描いた「魔法」は、 に生きたインディアンの物語』を書いた作家シオ レッド・クローバーで、 う気がします。彼女の父は文化人類学者のアルフ それに対して、 ・ラ・クローバーなんですよね。 『ゲド戦記』でル= いかにも彼女らしいな、 母は『イシ 二つの世界 グウィンが とい

以外の、 と思ったのです。 ジナルな存在。そういう人の目というのが欲しい 思えた。そういう視点をもつ人って、社会から少 あったり、境目に立つ境界の人であったり、 たのです。何か、 魔法使いではなく呪術師なら書きたいな、と思え ら、さて自分が書けるのは何だろうと思った時に、 つとしてあらわれます。そういうものを読みなが している人びとであれば、私にはとてもリアルに し外れざるを得ない場合が多い。異人の立場で 『ゲド戦記』では「魔法」は、世界の法則のひと この世に隠れている別の法則を探そうと 一般に知られている物理的法則 マー

化の体験なしには難しいように。 界を舞台にして書いてしまうと、難しいと思うん 治劇として書いてしまうと、その地域に詳しい人 かったのです。ただ、それを現実のある場所の政 相対化して欲しいんですよ。でもそれは、現実世 いうことを描きたかったので。 私は、 はい、その部分は意識して書きました。 そこに意識を集中してしまったりします。 自分が生まれ育った文化の相対化が、異文 世界を丸ごと俯瞰して欲しいんです。 それが嫌なのです。 現実と作品を比べて解説してしまい、 むしろ、 国境を相対化した 世界全体を そ 読

くるのではないかと思うのです。 囚われてしまうのか、というようなことが見えて 権威が生まれ、その権威に人びとはこれほど強く 立っている共同体なのかもしれない、とか、なぜ、 ういう視野が生じたとき、はじめて、たとえば、 国というのは、人びとの想像によって成り

は、どれほど「良い」「賢い」人が為政者になっ れてしまったら、その人のキャラクターの問題と だったから、こういう問題が起きたのだ」と思わ して理解されてしまうでしょう? 人間」に描きたくないのです。「あの人が悪い奴 だから、私は、皇族など為政者たちを、「悪い 様々な問題は起こってくるわけです でも、 実際に

後から見ると、どこか人類学的な匂いがするのか も知れません。 るというか、そうやって組み上げていった物語が な気がします。そういうことが羅針盤になってい

はないでしょうか。 語世界が、たとえば人類学に影響をおよぼすこと そうすると、今は人類学の方から物語をつく 紡ぎ出すということですが、反対に物

しかも、 と語弊があるかも。例えば私は絶対、アボリジニ けないことだと感じています。 わって彼らのことを物語るというのは、 アボリジニではありませんから、 れない。それがすごく怖いんです。 まった時に一種の権威になって固定化するかもし できない。そういう世界を物語として書いてし みることも出来ないわけだから、 の多くは、アボリジニが暮らしている所に行って あるいう肩書きが肩にのったりしてしまう。読者 主観によって切り取ったものを一旦表現してしま れないですけど、いまだに私は「書く」ことにつ を物語にしたりはしません。気が小さいのかも いてこだわっています。民族誌にしろ何にしろ、 えーと、 ひとり歩きすることが、 私の場合は人類学者である、大学教授で 人類学の方から物語をつくる、という 大変おそろしい。 検証することが 彼らに成り代 それに、 してはい 私は



たら、 影響を及ぼす、 うことはあるかもし だわりは、 れません。 ことへの感受性やこ 「表現する」という 自分の研究に 「物語る」 もしかし とい

八類学のすすめ

類学のような相対化の視点を持って欲しいと。 そういう意味では一般の人たちにも、もっと人

ど文化人類学については知られていない。 史学はよく知ってる。地理学も知っている。 らない学生が多いんですよ。高校までのあいだに、 化人類学って聞いたことある?」と聞いても、 ることかな、と思っています。 一度も触れることがないからなんでしょうね。歴 何かひとつ文化人類学にご恩返しを出来るとし 一般の人たちに文化人類学の面白さを伝え 大学一年生に だけ 文 知

魅力的な学問かも知れないと、考えるきっかけに なって欲しいという気持ちは、 文化人類学の見方や、成果、 作品のベースに人類学の知識があるというこ すごくあります。 考え方に対して、

とが読んだ人にはわかるのでしょうか。

だったりします。さっきお話ししたように、 えた時に、文化人類学の背景があるからだ、と読 ファンタジーが、他のものとどこが違う 私自身は「綿密な世界観」を設定としてつくって はいきなり頭の中に立ち上がってくるものなので、 者なので世界観がしっかりしている、ということ いてのほとんどの評に出てくるのは、 んでくださっているようなんですね。 いるつもりはないのですが、読者は、この人の インターネットなどに出ている、 私の作品につ 文化人類学 のかを考 物語

ていく様などの表現に違いがでてくるかもしれな火の匂いや、日が暮れてきた時に火の色が変わっ 験をしたことがない人が物語を書いた場合、焚き 験としてわかったりしますよね。全くそういう経 例えば、カンガルーの内臓の匂いなんかが、実体 それから、 私たちはフィールドワー カーだから、

> 服従しないで済むこともあるでしょう。 存在なら、 書きたいな、と思えるのです。 そういう

そういう人は、この世の権威である王などに対

他の人びとがもつような常識的な感覚では

## へ類学が羅針盤

### 理がイメージ化するんですね。 言語的に論理を作っているのでは無くて、

とか、「こうなった場合は、こうなるだろう」と 類学を学んだことで、 意識してやっていることじゃないんですが、 ある方向に動かしていく力になっているよう 物語を書いている時に、「待てこれは違う」 もつことができた様々なも



と思うことはあります。

ても、 界に入れるのだと思うんです。異世界を描いてい そういうことを表現できてはじめて、読者は異世 光の当たり具合まで、気にしながら書いています て欲しいんです。 物語を書いているとき、私は、 読者がその世界で暮らしているように感じ 匂いや手触り、

### すか。 みんぱくでなにかヒントを得たことはありま

『精霊の守り人』を劇にして上演してくれた〈2008年9月〉

います。 や思考がつくってくれているのだと思うんです。 物語が芽吹く土壌を、こういう場で得られた知識 話を聞き、 いうことが、 共同研究をしている時に、多くの研究者たちの 物語は「いきなりあらわれる」わけですが 議論を聞くことができましたが、そう 本当に大きな財産になっていると思

すよね。こんな造形を人間はなぜ考え出していく なヒントになりますね。仮面などの造形もそうで えないと、書けない。そういう時に、 う細部なんです。 物語を書いていて一番こまるところは実はそうい 細部まで見られるのがありがたいんです。 ろいです。 いう形をしていて、 それからやはり展示場が素晴らしいですよね。 舟の細部などを知る事が出来るのは貴重です ということや、多様性などがとてもおもり 舟を書く場合には、それがどう どこがどうなっているかが見 すごく大き たとえ

だきました、まことにありがとうございました。 本日は物語世界の奥深さに眼を開かせていた